

製・配・販連携による店舗(売場)起点での サプライチェーン全体最適に向けたロジスティクス改革 ～薬王堂の非食品＋食品融合型フルライン物流改革取組みについて～

2025年7月4日(金)

お取引先 23社



生活必需品を取扱い、生活者の当たり前の日常を支える
社会インフラの役割を担う

出荷数

総出荷数（年間）

35億個

国民1人当たり（年間）

30個

取引先

メーカー

1,000社

小売業

400社
(50,000店舗)

当社は、すべての人々の
日常に密着した**生活に欠かすことのできない商品**を
取り扱う**中間流通事業者**です。



化粧品

シャンプー／洗顔料
化粧水／男性化粧品
制汗剤／リップ／メイク など



日用品

衣料洗剤／食器洗剤
歯ブラシ／ペーパー類
ラップ／殺虫剤／カイロ など



一般用医薬品

風邪薬／頭痛薬
ビタミン剤／胃腸薬
目薬／外用消炎剤 など



健康・衛生関連品

ベビー用品／サプリメント
機能性食品／マスク
消毒液／コンタクトケア など



取扱い品目：**50,000**品目

PALTACが目指す中間流通業とは

消費者満足



サプライチェーン全体の最適化・効率化への貢献



流通全体の生産性向上 及び サステナビリティへの貢献を同時に実現

目次

1. 製・配・販連携によるこれまでの薬王堂物流改革の取組み
2. 予測困難な業界環境変化においてサプライチェーンにおける『企業責任』
3. サプライチェーンを取り巻く社会環境
4. 非食品・食品を融合したフルライン物流による物流効率化
5. 製・配・販各領域の課題とロジスティクス改革への期待
6. 課題解決に向けた具体策事例
7. 定量的効果と課題対策評価
8. その他(サステナブルロジスティクスの取組み・SDGs等の課題解決)

製・配・販連携によるこれまでの薬王堂物流改革の取組み

製・配・販連携でのロジスティクス改革変遷

年次トピックス(予測含)

年度別取組み内容

年度別取組み結果

2015年～2020年

2021年～2025年

増税駆け込み需要

EC市場拡大

新型コロナウイルス

原油高騰

能登半島地震

標準的な運賃の告示

2024年問題(改善基準告示)

2025年
労働力不足(330万人)
運送力不足▲28%
自動運転トラック実用化

在庫型センター

食品共同配送

食品+非食一括物流

■2015年～物流受託業務開始(東北/宮城/青森/八戸)

同時に物量平準化を実施、カテゴリー納品の開始、返品業務の集約化

■2016年～新店オープン時の部門・通路別納品、発注単位見直し

■2017年～店舗別在庫コントロール及び店舗間移動システムの開始

■2018年～他小売業との共同配送開始、納品時間、納品回数見直し

■2020年～キャリアユニットロード開始、食品TC物流受託開始(八戸)

■2021年～食品物流 共同配送開始(八戸)

■2022年～食品物流 共同配送開始(青森)

■2022年～非食品センター(秋田)

■2024年9月～
雑貨・食品一括物流開始(宮城)

■2015年～流通全体で大幅にタッチ回数削減

ムリ・ムダ・ムラの排除店舗オペレーション生産性向上(作業時間半分に)

■2016年～

①店舗内での補充陳列作業軽減(作業時間は半分に)②物流センター生産性向上(約30%改善)

■2017年～

返品削減と同時に店舗在庫の適正化の挑戦(約20%削減)

■2018年～

トラック積載率約20%～30%向上

■2021年～

青森エリア共同配送開始。店舗納品車両数減(約5%削減)

■2022年～

秋田エリア共同配送開始。店舗納品車両数減(約5%削減)

■2020年～

お酒、ペットカテゴリーよりTC1型対応を開始
(積載率約10%向上)

■2024年9月～
トラック台数20%～30%削減目標

これまで培ってきた物流ノウハウを今後さらに厳しさが増す業界変化に向けてレジリエンス体制強化!

VUCAの時代

- 政治的対立の深刻化：物価高騰の持続
- 経済の分断：調達リスクの増大
- 持続可能な社会の常識化：社会コストの増加
- IT進化による不可逆的な利便性・合理性追求
：労働生産性のUPと対価の増大



製・配・販が連携し、業種・業態の垣根を超えたサプライチェーン構築が必要

サプライチェーンを取り巻く社会環境(着眼点)



非食品・食品を融合したフルライン物流による物流効率化

サプライチェーン全体最適には、非食品・食品を融合したフルライン物流が必要と判断

2022年1月31日、非食品・食品一括物流の開始を両社合意 業界環境変化に向けて、早期にロジスティクス改革が必要と判断

PRESS RELEASE

2022年1月31日
株式会社PALTAC
株式会社薬王堂

サプライチェーン全体のさらなる最適化・効率化を 目指し、非食品・食品における一括物流を開始

株式会社PALTAC（本社：大阪市、代表取締役社長 穂谷誠一、以下PALTAC）と株式会社薬王堂（本社：船橋市、代表取締役社長 執行役員 西郷真弘、以下薬王堂）は、サプライチェーン全体のさらなる最適化・効率化を目指し、これまで非食品部門と食品部門において別々で行っていた物流（物流センターにおける荷受け・保管・出荷、店舗への配送）を2024年9月から協働して一括で行うことといたしました。食品物流をPALTACが担うことは、化粧品・日用品、一般消費財（非食品）の中間流通を担う基幹として新たな事業エリアへの挑戦となります。

PALTACと薬王堂が関するサプライチェーンは、人手不足に陥る配送費・人件費の高騰といった経済的課題、働き方改革・ホワイト物流・二酸化炭素排出量の削減といった社会的課題など様々な課題に直面しています。現在、PALTACと他企業等が別々で受託している薬王堂の非食品部門及び食品部門の物流をPALTACが関東北エリアにおいて一括して受託し、これらの課題を同時に解決することを目指します。

今回、一括物流の対象となる食品は、非食品部門との「管理、出荷、配送」における親和性と生産性を高め、飲料や菓子など温度管理が不要な常温食品から取組んでまいります。これらを一括して納品することにより、配送に要する人手やトラック台数は2～3割減少し、配送費の削減やホワイト物流の推進などにつながります。また、配送回数の減少に伴い、店舗での荷受け回数が減少することに加えて、現在、非食品で行っているカテゴリ納品を食品にも導入することで、運賃作業が軽減され、働き方改革にもつながると考えています。

一括物流の開始にあたり、PALTACは物量増加に対応するため、既存の物流センターであるRDC富城を増設し、年間出荷能力を350億円から550億円まで拡大させます。出荷能力拡大によりセンター運賃に余裕を持たせることで、一括物流の拠点として活用するとともに、既存の物流においても他センターへの商品移動量を削減し、配送の効率をさらに高めてまいります。

PALTACと薬王堂は、サプライチェーン全体の最適化・効率化が持続可能な社会の構築につながるの考えを共有し、過去から協働で取組みを進めております。2020年7月には、『キャリアを活用した一貫ユニットロード化』の取組みにおいて「サプライチェーンイノベーション大賞」の「大賞」を受賞しました。本取組みも、この考えに迫ったものであり、サステナブルな社会の実現・両社の持続的成長に向けて着実に歩みを進めてまいります。

1



PRESS RELEASE

報道関係各位



株式会社薬王堂ホールディングス
株式会社PALTAC

配送に要する人手やトラック台数は2～3割減少の見込み サプライチェーン全体のさらなる最適化・効率化を目指し 2024年9月から非食品・食品における一括物流を開始

これまで非食品部門と食品部門において別々で行っていた物流を2024年9月から協働して一括物流開始

「東北から世界の健康をデザインする」を新ビジョンに掲げる当社グループは、子会社であり東北6県に358店舗のドラッグストアを展開する株式会社薬王堂（以下薬王堂）にて、卸と物流業務の委託先である株式会社PALTAC（以下PALTAC）とサプライチェーン全体のさらなる最適化・効率化を目指し、これまで非食品部門と食品部門において別々で行っていた物流（PALTAC 物流センターにおける荷受け・保管・出荷、店舗への配送）を2024年9月から協働して一括で行うことといたしましたのでお知らせいたします。

・取り組みの狙い

株式会社薬王堂ホールディングスは「東北から世界の健康をデザインする」を新ビジョンとし、東北地方の健康を今後の日本、更には世界の社会課題と捉え、当子会社の株式会社薬王堂の店舗、および Medica 株式会社の異業種とのコラボレーションから生じるビッグデータを用いて課題解決を通じた SDGs の実現を目指しています。

薬王堂と PALTAC が関するサプライチェーンは、人手不足に陥る配送費・人件費の高騰といった経済的課題、働き方改革・ホワイト物流・二酸化炭素排出量の削減といった社会的課題など様々な課題に直面しています。現在、PALTAC と他企業等へ別々で委託している薬王堂の非食品部門及び食品部門の物流を PALTAC へ関東北エリアにおいて一括して委託し、これらの課題を同時に解決することを目指します。

今回、一括物流の対象となる食品は、非食品部門との「管理、出荷、配送」における親和性と生産性を高め、飲料や菓子など温度管理が不要な常温食品から取組んでまいります。これらを一括して納品することにより、配送に要する人手やトラック台数は2～3割減少し、配送費の削減やホワイト物流の推進などにつながります。また、配送回数の減少に伴い、店舗での荷受け回数が減少することに加えて、現在、非食品で行っているカテゴリ納品を食品にも導入することで、運賃作業が軽減され、働き方改革にもつながると考えています。

・薬王堂と PALTAC の取り組みについて

薬王堂と PALTAC は、サプライチェーン全体の最適化・効率化が持続可能な社会の構築につながるの考えを共有し、過去から協働で取組みを進めております。2020年7月には、『キャリアを活用した一貫ユニットロード化』の取組みにおいて経済産業省が事務局を務める製・配・販連実証協会「サプライチェーンイノベーション大賞」の「大賞」を受賞しました。本取組みも、この考えに迫ったものであり、サステナブルな社会の実現・両社の持続的成長に向けて着実に歩みを進めてまいります。

(※庫内メリット)従来ハイブリッド(HB)センターに食品部門を融合し、効率最大化

第1弾

<従来型専用DCセンター> 専用の建物にそれぞれの在庫を受託し管理

A卸

B卸

C卸

E卸

D卸

F卸

第2弾

<ハイブリッド(HB)型センター> 既存センター在庫を活用し、お取引先在庫と融合で効率最大化

卸センター機能

共有在庫機能

専用センター機能

既存の卸在庫

仕入振替・預託(非食品)

専用在庫

・日用雑貨、化粧品、ヘルスケア(OTC)のみ(店舗棚割りに応じた出荷体制)

第3弾

<フルライン型HBセンター> 既存HB型センターと食品部門を融合しサプライチェーン全体最適化

卸センター機能

共有在庫機能

専用センター機能

既存の卸在庫

仕入振替・預託(食品融合)

専用在庫(食品部門融合)

・日用雑貨、化粧品、ヘルスケア(OTC)に食品部門を追加(店舗売場の約7割をカバー)

(※配送メリット)フルライン型ハイブリッドセンターへ集約し、配送効率最大化

BEFORE

薬王堂 非食品センター



(PALTACが受託・運営)

薬王堂 食品センター



(他企業が受託・運営)

カテゴリ納品(非食品のみ)



食品のみ



薬王堂 店舗



荷受回数×2回

AFTER

非食+食品を集約(‘24年9月~)

薬王堂 非食品+食品センター



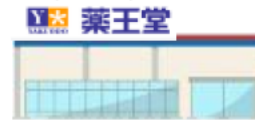
(PALTACが受託・運営)

フルラインカテゴリ納品実現

非食品と食品(店舗物量の約7割~8割)の一括物流



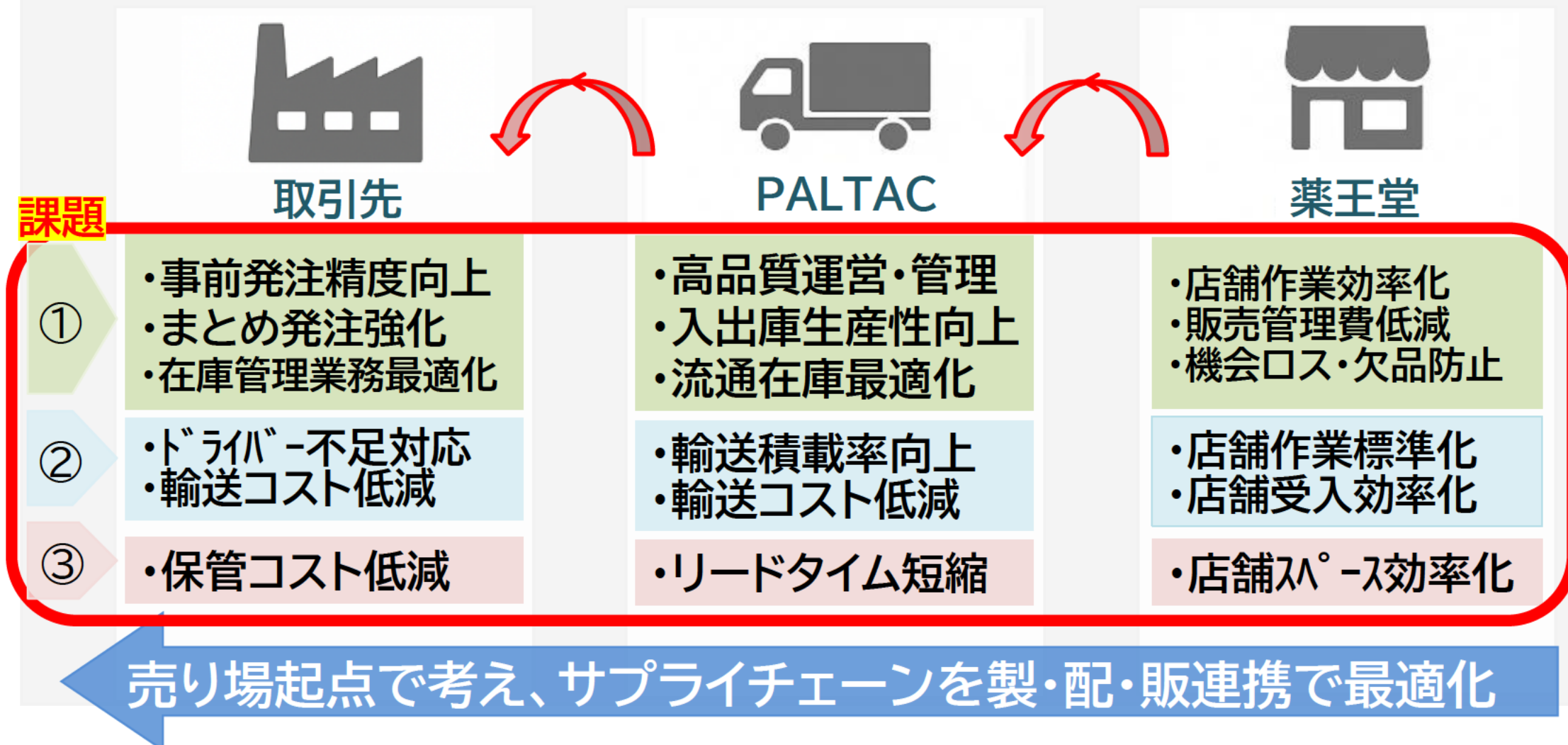
薬王堂 店舗



トラック台数及びCO2は約2~3割削減 荷受回数×1回

2024年問題(ドライバー不足・運賃高騰)を本取組みで解決し、商品の安定供給を実現

サプライチェーンにおける各領域の課題とフルライン物流への期待



課題解決に向けた具体策事例

課題①への取り組み

課題①への取組み・・・店舗棚割り順に応じた商品出荷による品揃え

◆店舗補充作業の生産性向上

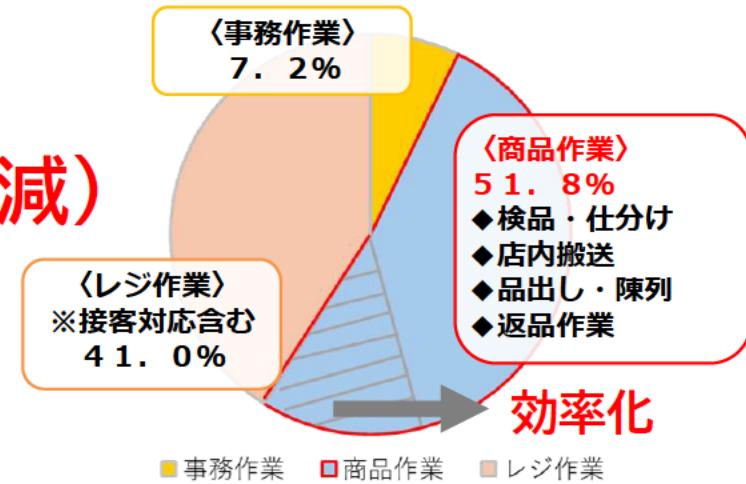
オリコン内商品を売場棚割り順に品揃え

店舗の商品補充作業の生産性向上＝作業人時(約2割低減)

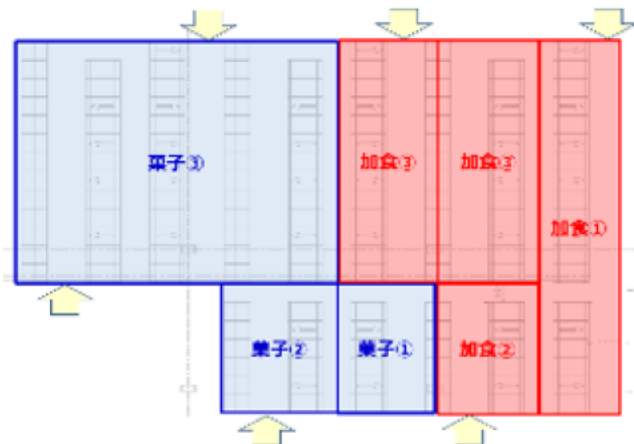
⇒店舗作業全体の約52%を占める補充作業の時間短縮

売場レイアウトに応じた物流センターレイアウト設計

〈項目と作業人時の構成比〉



【物流センターの棚割】



【店舗の棚割】

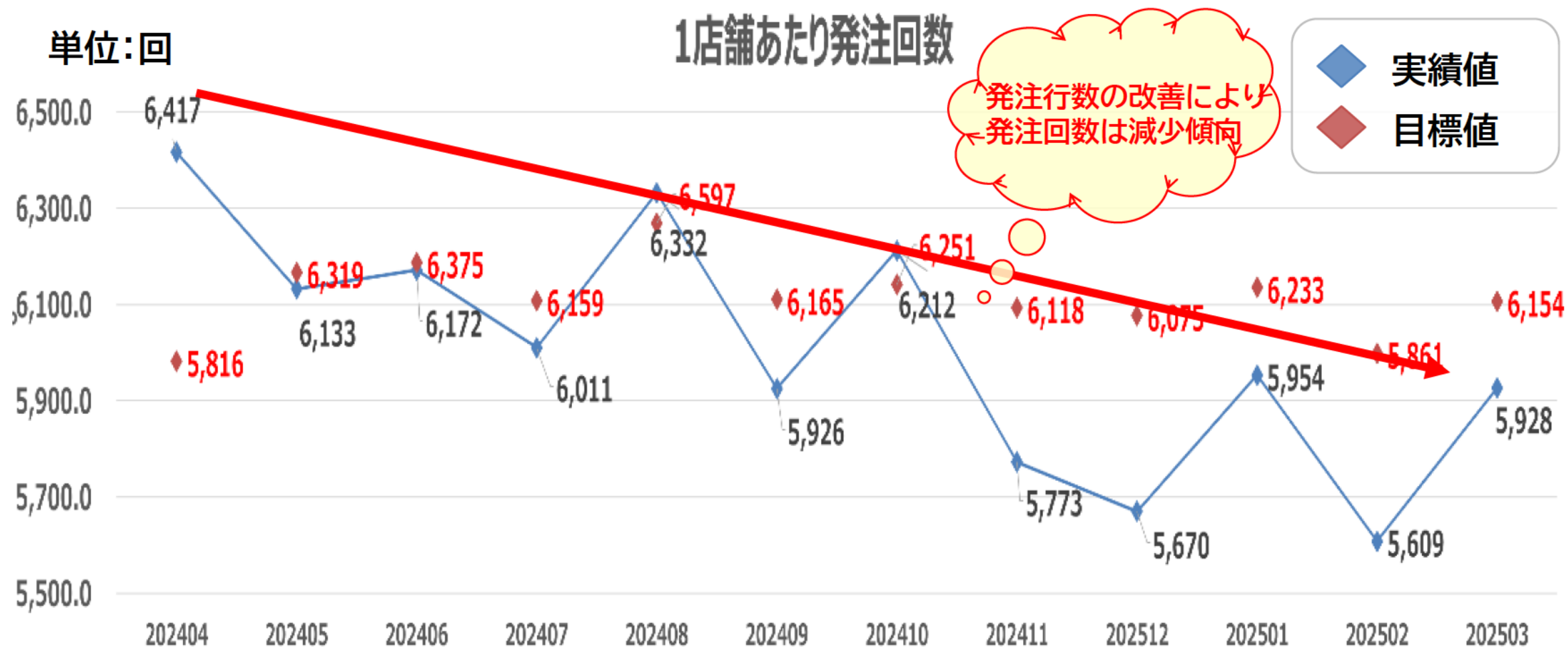


【食品部門のカテゴリー納品】



課題①への取組み・・・発注単位改善による発注行数低減＝発注回数低減

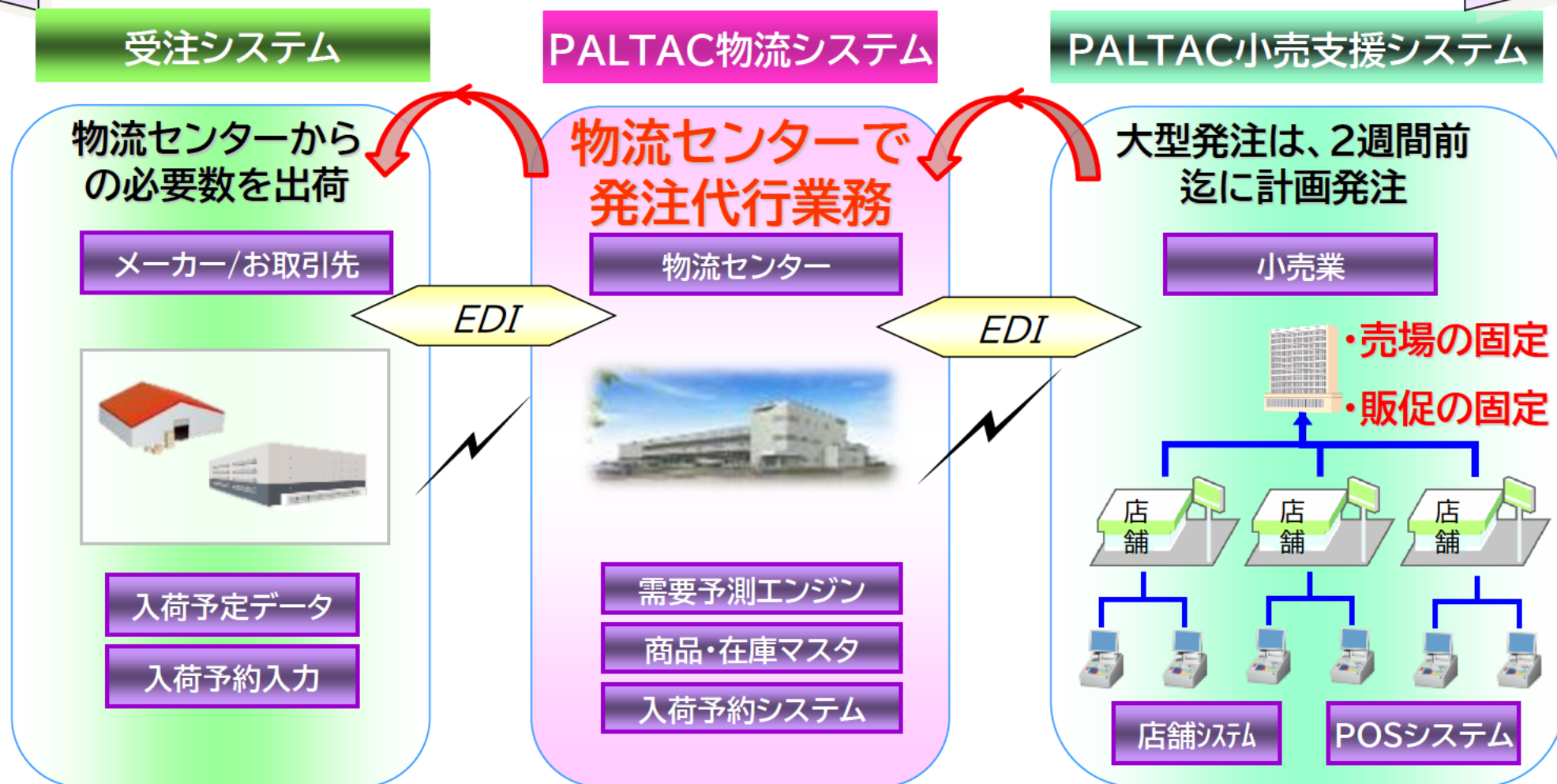
◆商品特性毎のグルーピング単位に、発注単位を改善し発注行数改善



物流センター出荷及び店舗のそれぞれ作業人時が約10%低減

課題①への取組み・・・物流センターでお取引先の発注業務を代行し、流通在庫最適化

小売業からお取引先までの発注業務(需要予測)を連携し、サプライチェーン全体で在庫最適化



薬王堂での”売場の固定”と”販促の固定”が、製・配・販全体での商品安定供給を実現

課題②への取り組み

課題②への取組み・・・納品指定時間緩和による配送効率化

◆店舗営業時間から翌午前中への店舗納品時間のフリースケジュール化



・店舗受入時間に柔軟性を導入

夜間納品だけではなく、営業時間内の受入れを可能



・物量と連動した、店舗納品時間変動対応

納品物量に応じて日々、店舗納品時間も変更可能

2024年問題を考慮し、店舗納品時間の緩和と納品時間の柔軟な対応を実現

課題②への取組み・・・販売状況連動型での出荷品質対応で配送効率化

◆販売状況に応じて、優先補充商品を部門別に物流センターで出荷⇒食品部門の納品回数半分に実現！



1.優先補充部門 納品日1日目

- ① ケース品
- ② 食品、酒
- ③ 日用品
- ④ トイレタリー



2.低優先補充部門

- ⑤ バラエティ
- ⑥ ドラッグ
- ⑦ 衛生・ベビー
- ⑧ 化粧品
- ⑨ 衣料

トラック台数及びCO2は
約2～3割削減



3. 結果

補充優先商品と低優先商品を
部門毎に物流センターで仕分け
可能となり、食品部門の納品回
数を『週6回から週3回へ低減』
することが実現。

- ・トラック積載効率の向上
- ・ドライバー拘束時間低減
- ・CO2排出の低減

店舗補充優先の部門と低優先の部門を物流センターで完全に仕分けすることで、店舗には1回で納品が可能となり、食品部門は従来の週6回配送から週3回配送へ

課題②への取組み・・・運送DXへの取組み(運行管理情報の可視化)

- ◆運行管理情報を可視化し、ドライバーにおける「働き方」改善への取組みを実施
⇒店舗荷降し時間や、運行時間の低減に向け、
運行管理システムを導入(株式会社Hacobu様のMovoFleet(ムーボ・フリート)を導入)



専用端末をシガーソケットに取り付け



車両位置や配送状況をリアルタイムに可視化



配送計画を入力し、
走行実績・配送実績
データの活用

店舗納品時間を可視化。納品時間が長い店舗より改善(2024年問題対策)

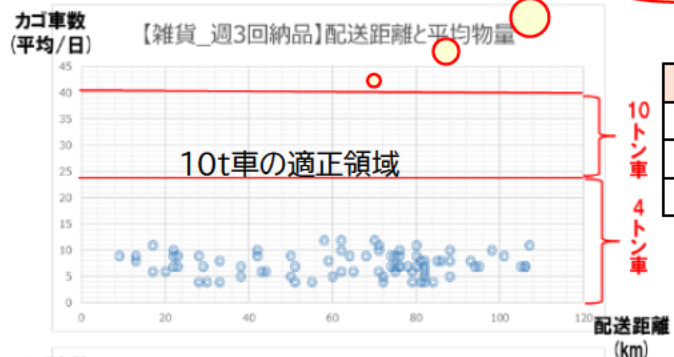
課題②への取組み・・・運送DXへの取組み(運行管理情報の可視化)

◆車格の改善・・・10t車比率の向上

食品雑貨一括物流により、1店舗当たり積載物量は**約2倍**にアップ(積載率向上)

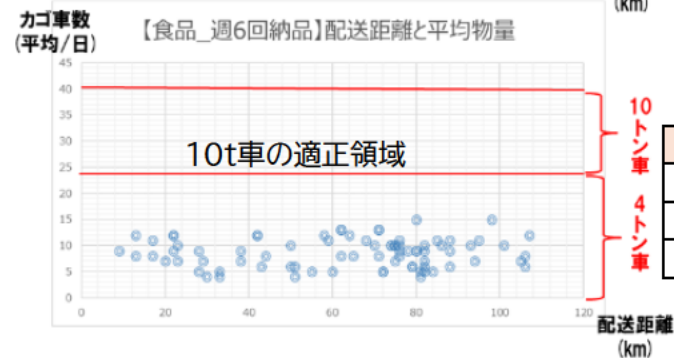
⇒(従来)4t車:10t車比率=78%:22% (変更後) 4t車:10t車=55%:45%

(従来)



車格の構成比

車格	比率
4t車	78.3%
10t車	21.7%
計	100%

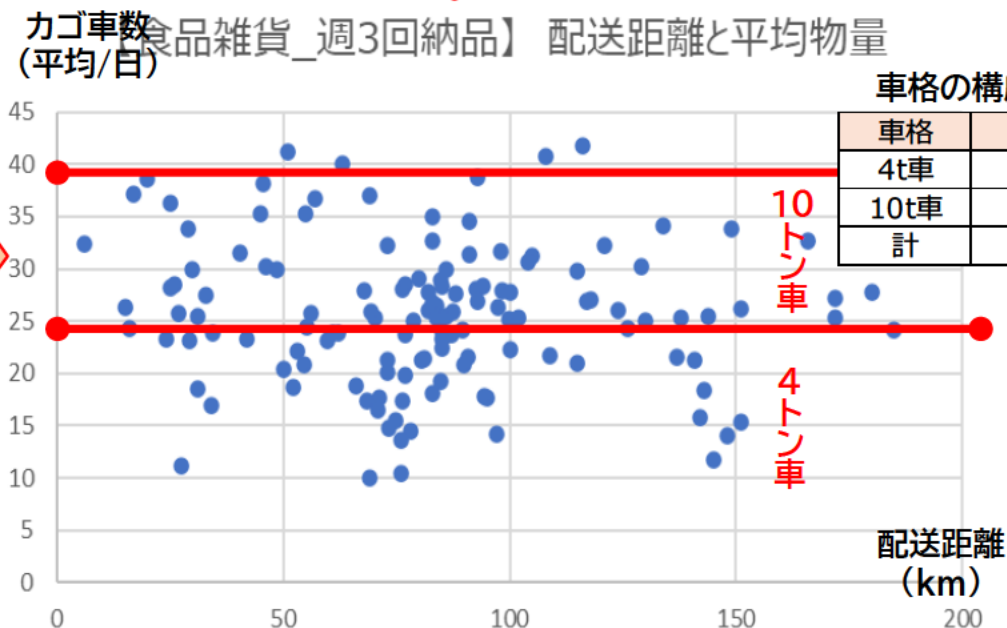


車格の構成比

車格	比率
4t車	68.2%
10t車	31.8%
計	100%

一括物流で
積載物量を約2倍に

(変更後)



車格の構成比

車格	比率
4t車	55%
10t車	45%
計	100%

一括物流により積載物量が2倍と
なった結果、10t車の比率を
高めることに成功

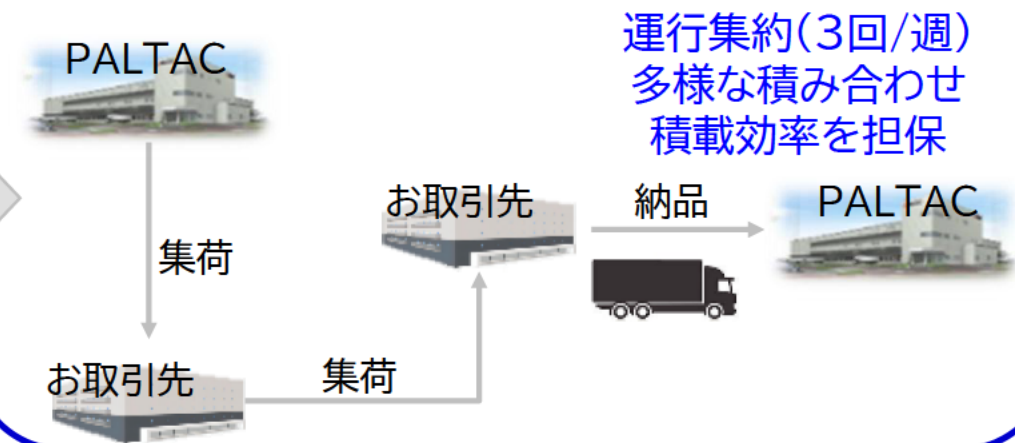
1店舗あたり積載物量(平均カゴ車数)
を増加することができれば、
10t車の比率を高めることが可能

課題②への取組み・・・お取引先と配送融合による積載効率化

◆運行情報可視化でお取引先調達物流での配送効率化

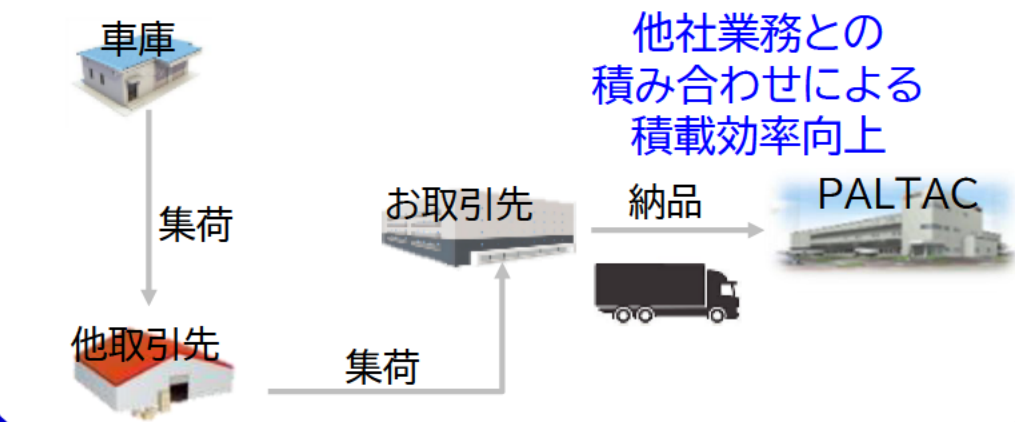
AFTER①

●ミルクラン集配方式(PALTAC手配)



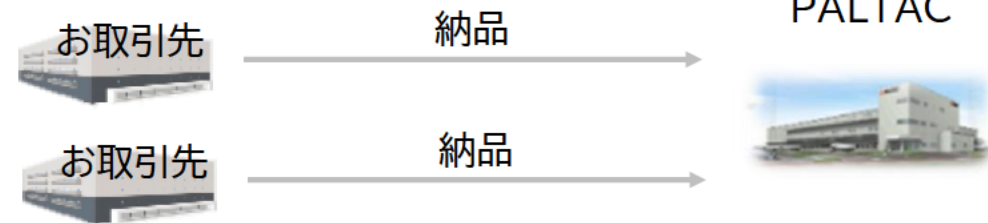
AFTER②

●他取引先との共同配送(PALTAC手配)



BEFORE

●単独手配(ベンダー手配)



項目	Before	比較	After
乗務員 人件費	2人	> 集約	1人
車両 原価	2車		1車

各取引先毎の配送乗務員を半分に集約

(導入効果)

- ・トラック積載率(実車率)の向上
- ・運行集約による積載効率を担保
- ・トラック台数、乗務員の低減(約▲10%)
- ・CO2排出量の低減(約▲10%)

課題②への取組み・・・マテハン統一によるユニットロード化の実現

◆マテハンの統一とユニットロード化によるドライバー「働き方」改善

BEFORE



AFTER

メーカーの出荷時点(引取)からカゴ車へ載せ替えへ変更

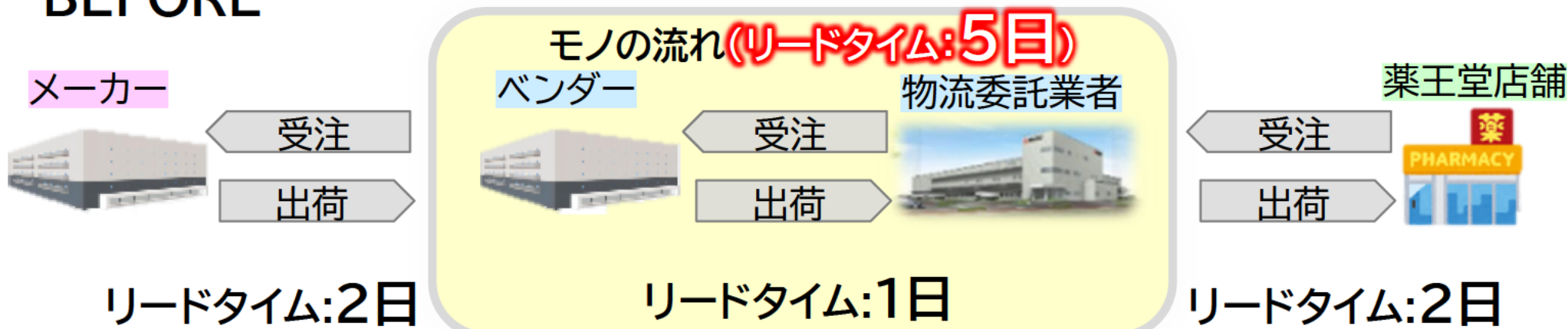


課題③への取り組み

課題③への取組み・・・リードタイム短縮について

◆リードタイム短縮(5日から3.9日へ)による在庫量の低減

BEFORE



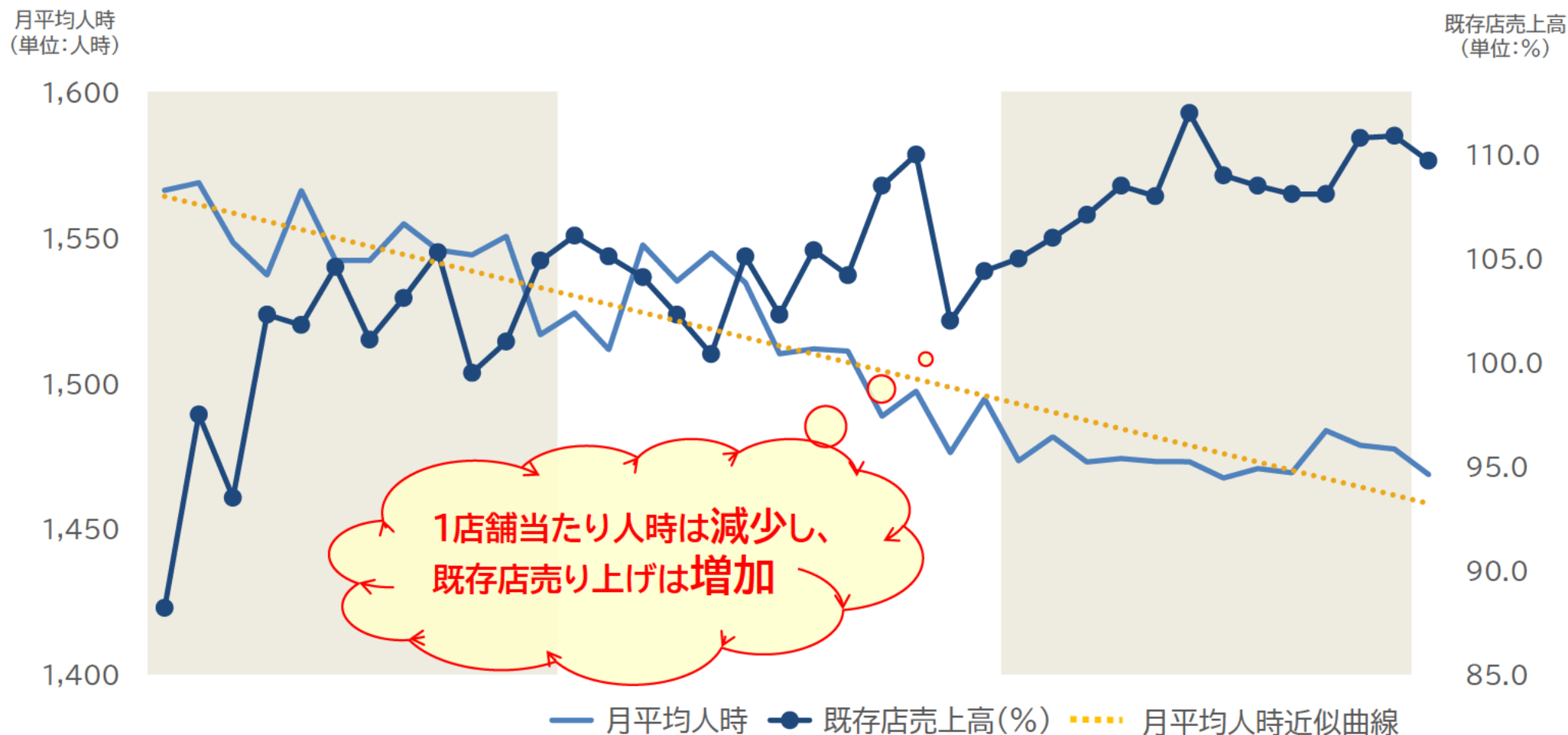
AFTER



定量的効果と課題対策評価

薬王堂の定量的効果結果

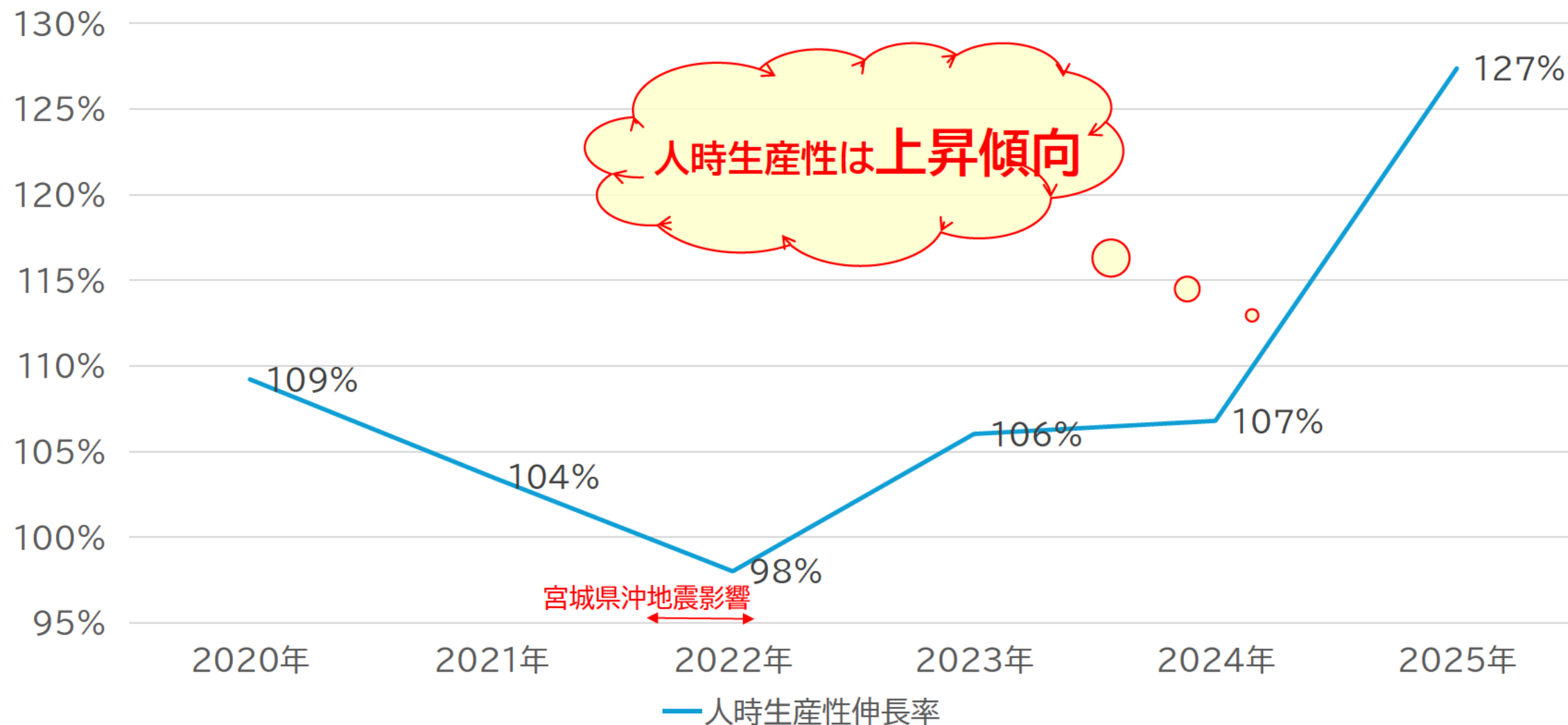
1店舗当たり月平均人時と既存店売上高の推移



PALTACの定量的効果結果

人時生産性
(単位:前年対比率)

人時生産性伸長率



ロジスティクス改革に伴うCO2排出削減効果について

【店舗配送での改善効果(CO2排出量約20%削減)】

□店舗配送（現状）

定期便シミュレーション		車格	走行台数 台数/月	走行距離 km/月	CO2排出量 kg-CO2
食品	既存物流会社	10t	187	49,564	44,928
		4t	402	106,421	54,321
小計			589	155,984	99,249
雑貨	PALTAC	10t	143	40,283	36,515
		4t	515	106,964	54,599
小計			658	147,247	91,113
合計…①			1,247	303,232	190,362

□食品＋雑貨一括店舗輸送(改善後)

定期便シミュレーション		車格	走行台数 台数/月	走行距離 km/月	CO2排出量 kg-CO2
火木土 食品雑貨	PALTAC	10t	260	54,314	47,089
		4t	260	71,513	35,011
小計			520	125,827	82,099
水金日 食品雑貨	PALTAC	10t	273	57,837	49,753
		4t	260	78,273	38,320
小計			533	136,110	88,073
合計…②			1,053	261,937	170,172

□横持便の削減（宮城RDC～宮城FDC）

定期便シミュレーション		車格	走行台数 台数/月	走行距離 km/月	CO2排出量 kg-CO2
現状	PALTAC…③	10t	26	1,040	1,027
改善後	PALTAC…④	10t	0	0	0

□横持便の削減（東北RDC～宮城FDC）

定期便シミュレーション		車格	走行台数 台数/月	走行距離 km/月	CO2排出量 kg-CO2
現状	PALTAC…⑤	10t	78	29,172	28,806
改善後	PALTAC…⑥	10t	26	9,724	9,602

現状(①+③+⑤)	1,351	333,444	220,196
改善(②+④+⑥)	1,079	271,661	179,774
差額	-272	-61,783	-40,422
差率	80%	81%	82%

CO2排出量削減効果
【店舗＝300坪当たり】



製・配・販各領域の課題に向けた実施評価



取引先



PALTAC



薬王堂

課題

①

- ・事前発注精度向上(△)
- ・まとめ発注強化(△)
- ・在庫管理業務最適化(○)

②

- ・ドライバー不足対応(○)
- ・輸送コスト低減(○)

③

- ・保管コスト低減(○)

- ・高品質運営・管理(○)
- ・入在庫生産性向上(○)
- ・流通在庫最適化(○)

- ・輸送積載率向上(○)
- ・輸送コスト低減(○)

- ・リードタイム短縮(○)

- ・店舗作業効率化(○)
- ・販売管理費低減(○)
- ・機会ロス・欠品防(○)

- ・店舗作業標準化(○)
- ・店舗受入効率化(○)

- ・店舗入°-ス効率化(△)

今後は、『物流』×『データサイエンス』で更なる効率化に挑戦

その他・・・サステナブルロジスティクスの取組み

◆物流センターの人手不足対策とBCP対応



非常用自家発電装置

災害時に3日間の
センター稼働が可能



相互出荷体制

複数センターからの
商品代替出荷が可能



サーバー二重化

有事の際も停止しない
システムを構築



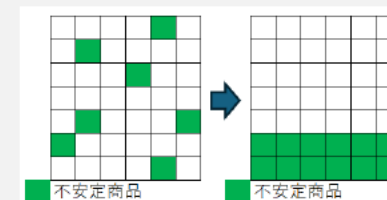
免震構造

地震による影響を
最小限に抑える



食品ケース出荷 ロボット

ロボットを活用し、
人に優しい物流を実現



最適保管層管理

不安定な商品や液体、重量品は揺れの小さい下段に保管する。
自動倉庫用在庫配置ロジックを開発

災害やデータ通信障害時でも、“商品の安定供給＝『止めない物流』”を実現

SDGsの視点

①製・配・販連携したロジスティクス改革



②非食品・食品融合における配送トラック削減(CO2削減)



③販売データ連携による在庫最適化



「ホワイト物流」推進

トラック配送の生産性の向上・物流の効率化

⇒非食品・食品融合における配送積載効率向上

⇒お取引先への調達物流推進(追加トラック無し)



今後もサプライチェーンを担う企業として社会的役割を果たして参ります。